



高校生を対象とした公開授業科目(第2学期) および夏の体験授業シラバス ～2025年度版～



「シラバス」とは・・・

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。
一般に、授業名、担当教員名、講義目的、
各回ごとの授業内容などが記されており、
学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。



香川大学 マスコットキャラクター

【お問い合わせ】

香川県教育委員会 高校教育課 教育指導グループ

〒760-8582 高松市天神前6-1
TEL 087-832-3750 FAX 087-806-0232

香川大学 教育・学生支援部 教育企画課

〒760-8521 高松市幸町1-1
TEL 087-832-1147 FAX 087-832-1155

※授業内容に関するお問い合わせは香川大学まで。

【公開授業科目(第2学期)】

授業科目名	教養/専門(注1)	担当教員	期間(注2)	曜日	時間	頁
法学A【口】	教養教育	杉木 志帆 (教育学部)	10月2日～2月5日 (計15回)	木	16:20～17:50	1
政治学	教養教育	藤井 篤 (法学部)	12月4日～2月12日 (1日2回、計15回)	木	18:00～19:30 19:40～21:10	2
生物学	教養教育	小宅 由似 (創造工学部)	12月9日～2月10日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	3～4
国際協力論A	教養教育	木下 康光 (インターナショナルオフィ ス)	10月2日～11月27日 (計8回)	木	16:20～17:50	5～6
国際協力論B	教養教育	木下 康光 (インターナショナルオフィ ス)	12月4日～2月12日 (計8回)	木	16:20～17:50	7～8
子どもの視座から教育を考える	教養教育	山岸 知幸 (教育学部)	12月4日～2月12日 (計8回)	木	16:20～17:50	9
知プラe科目 データサイエンスを活用した防 災・危機管理	教養教育	野々村 敦子 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日	－	－	10
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコン ピューターシミュレーション	教養教育	岡崎 慎一郎 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日	－	－	11
知プラe科目 災害とデータサイエンス	教養教育	石塚 正秀 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日	－	－	12
憲法入門	専門教育	岸野 薫 (法学部)	10月2日～2月5日 (計15回)	木	16:20～17:50	13
政治思想	専門教育	金子 太郎 (法学部)	10月3日～1月30日 (計15回)	金	16:20～17:50	14
国際関係論	専門教育	鶴園 裕基 (法学部)	10月6日～2月2日 (計15回)	月	16:20～17:50	15
法学入門(夜間主コース)	専門教育	山本 陽一 (法学部)	12月8日～2月9日 (1日2回、計15回)	月	18:00～19:30 19:40～21:10	16
経済学入門A(夜間主コース)	専門教育	星野 良明 (経済学部)	10月3日～11月28日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	17

(注1) 香川大学の教育は、特定の専門分野に限定されない幅広い知識・能力を養う「**教養教育(全学共通科目)**」
と、専門職業人を養成するための「**専門教育(学部開設科目)**」とから成ります。
1年次の間は教養教育を中心に、2年次以降は専門教育を中心に学びます。

(注2) 授業スケジュール編成の都合上、一部の授業においては、通常とは異なる曜日に開講したり、休講になったり
することがあります。
詳細は、23～24ページの「2025年度行事予定表」をご参照ください。
(昼間と夜間主コースで授業スケジュールが異なります。お間違えのないようにお願いします。)

(注3) 状況により、一部の授業またはすべての授業が遠隔実施となる場合があります。
その場合はパソコンとインターネットの通信環境が必要となります。

(注4) 初回授業の前にガイダンスを行います。初回が対面授業の場合は、開始20分前に香川大学幸町北キャンパス
大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
初回が遠隔授業の場合は、別途お知らせいたします。

【夏の体験授業】

講 座 名	開設学部	期間	曜日	時間	頁
科学・技術の面白さを体験しよう	創造工学部	7月23日(水) ～7月25日(金)	－	午前の部:10:00～13:00 午後の部:14:00～17:00	18～21
農学部サイエンスアドベンチャー2025	農学部	8月8日	金	10:00～11:00 研究室紹介 11:00～12:00 施設探検	22

**大学の授業には、いろんな「気づき」があるよ。
その「気づき」を高校に持ち帰ってみよう。
高校の授業の見方も変わってくるはず！
大学生との交流も良い刺激になるよ！**



授業科目名 法学A【ロ】 Law A【ロ】	時間割 10月2日(木)～2月5日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 杉木 志帆	10月30日(木)、1月15日(木)は、振替授業で月曜日、金曜日の授業になりますので、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)	
授業の概要 日本国憲法を中心に、国際法との関わりにも触れながら講義を行います。授業では、次の3つのテーマを扱います。第一に、国内社会と国際社会における法の仕組みについてです(第2～4回)。第二に人権保障について(第5～12回)、第三に統治機構について扱います(第13～14回)。	
授業の目的 日本国憲法について、国際社会とのかかわりも含めて重層的に学ぶことは、グローバル化が進む今日の社会において、ますます求められています。そのため、この授業は、受講生の皆さんに、日本国憲法と国際社会における法の仕組みを踏まえて、現実社会の仕組みを説明し、またそれを批判的に検討する能力を養っていただくことを目的とします。 そこで、この授業では受講生の皆さんが、第一に、日本国憲法の全体像を把握できるようになること、第二に、日本国憲法と国際社会における法の仕組みを踏まえて、現実社会の問題をより深く理解し、論述できるようになることを目指します。	
到達目標 1. 法学の基本的な考え方と、憲法に関する基礎知識およびそれに関連する国際法の知識について説明できるようになる。 2. 習得した知識を踏まえて、具体的事例にどのように対処すべきかを考察し、自らの見解について論理的に記述ができるようになる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
◎授業計画 1. ガイダンスー法の学び方ー 2. 憲法の基本原理と国際社会① 3. 憲法の基本原理と国際社会② 4. 裁判・国際人権保障の仕組み 5. 法の下での平等① 6. 法の下での平等② 7. 精神的自由① 8. 精神的自由② 9. 経済的自由 10. 人身の自由 11. 社会権 12. 参政権・国務請求権 13. 統治機構① 14. 統治機構② 15. おわりに 16. 期末筆記試験 ◎授業及び学習の方法 授業は講義形式で行います。 主体的な学習の基本は、インプット(読書)とアウトプット(執筆・発言)です。受講生の皆さんには、知らないことを、信頼できる文献を通して自ら理解する能力をさらに向上させていただきたいので、事前学習として教科書・参考書等を読み、事後学習では授業内で説明する法学の方法論に則り、文章を書く練習をしてください。正確な(批判に耐えうる)思考は、執筆作業と自己または第三者による執筆物への批判とにより培われます。 講義の前後で各1～2時間を目安に、講義資料と教科書・参考書を参照しつつ、論述の練習をしてください。また、小レポート課題が出ましたら、毎週1～2時間を目安に、レポート作成の準備と執筆を行ってください。	
教科書・参考書等 教科書：毛利透『グラフィック憲法入門』(新世社、第3版、2024年) 2,530円 参考書： 芹田健太郎ほか『ブリッジブック国際人権法』第2版(信山社、2017年) 竹下賢ほか編『入門法学——現代社会の羅針盤——』(晃洋書房、第5版、2018年) そのほかは、適宜、お示しします。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この科目は基本的に対面授業を行います。1～数回程度、遠隔授業に変更する可能性があります。	

授業科目名 政治学 Politics	時間割 12月4日(木)～2月12日(木) 毎週木曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 藤井 篤	1月15日(木)は、振替授業で金曜日の授業になりますので、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)	
授業の概要 現代政治学における主要なトピックを取り上げつつ、政治学の基本的な概念や理論を学ぶことが本講義の課題である。本講義では日本政治を主要な事例として、自由民主主義体制が直面するさまざまな問題を取り扱うが、それらはあくまでも学問的な考察の対象であり、時事評論のそれではない。政治的イデオロギー、官僚、政治家、国会、政党、選挙、ジェンダー、安全保障、ポピュリズムなど、多様な問題群を通じて、基本的な政治学の考え方を習得することが目標である。	
授業の目的 (1)我々を取り巻く政治的現実について理解と関心を深めること。 (2)自由民主主義体制が抱えている様々な問題群について理解すること。 (3)それらの問題を説明するための政治学の基本的な概念や理論に習熟すること。	
到達目標 (1)我々を取り巻く政治的現実について説明ができる。 (2)自由民主主義体制が抱えている様々な問題群について説明ができる。 (3)政治学の基本的な概念や理論を現実に応用することができる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
毎回授業レジュメ・資料を配布する。理解を深めるためにノートを取ることを推奨する。 (1)イントロダクション・政治学って科学なのか。 (9)政党って何のためにあるのか。 (2)自民党政権はなぜ長く続いてきたのか。 (10)選挙に行くことに意味があるのか。 (3)右翼と左翼ってどう違うのか。 (11)なぜ日本では女の政治家が少ないのか。 (4)日本政治を支配しているのは誰か。 (12)マス・メディアは政治に影響をもつのか。 (5)官僚ってどういう人たちなのか。 (13)ポピュリズムは日本にもあるのか。 (6)政治家ってどういう人たちなのか。 (14)なぜ日本には米軍基地があるのか。 (7)国会って役に立っているのか。 (15)日本政治のゆくえ。 (8)中間試験 この科目は原則として対面授業を行います。なお、状況によっては全ての回を対面又は遠隔に変更する可能性があります。 (授業及び学習の方法) 口述、レジュメ、板書によって授業を行う。授業の進捗状況により一部内容・順序を変えることがある。試験の際に最も頼りになるのは自分のノートなので、毎回丁寧にノートをとることを勧める。また自学自習として毎回の講義後にノートを見直し、紹介された参考書を読むことを勧める。 (自学自習のアドバイス) 予習。前回授業の振り返りを各自でノートを見て行うこと。 復習。授業中にとったノートは、どうしても聞き逃しにより、未完成であるから、教員に質問したり、授業レジュメを参考に自分で調べるなどして、なるべく記憶の新しいうちに欠落を埋めること。後になって自分で読み返してわからないノートは意味がなく、試験でも役立たない。	
教科書・参考書等 教科書は指定しないが、参考書として以下のようなものがある。 上神貴佳・三浦まり『日本政治の第一歩』有斐閣、1900円。 北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣、1980円。 久米郁夫・田中愛治・河野勝『新訂 現代日本の政治』日本放送協会、2200円。 久米郁夫・川出良枝ほか『政治学』有斐閣、3400円。 岡田浩・松田憲忠『現代日本の政治』ミネルヴァ書房、2800円。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語を厳禁する。	

授業科目名 生物学 Biology	時間割 12月9日(火)～12月10日(火) 毎週火曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 小宅 由似	初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回 + 準備学習30時間 + 事後学習30時間	
授業の概要 本講義では、「生態学」と呼ばれる学術分野、および生態学に深く関連する分野の概要について、広く紹介します。具体的には、生物のありようの把握の仕方、生物がくらす地球の環境の概要、生物同士の関わり方、生物の種の誕生と絶滅のメカニズム、生態系の保全に対する考え方、それぞれの一部について概説します。	
授業の目的 SDGsのゴールをはじめ、いわゆる“自然環境の保護”に対する社会の要求が高まっています。しかし、“自然環境”を形づくる「生態系」のありかたを把握していなければ、“自然環境の保護”どころか破壊や損失に加担しかねません。本講義では生態系の理解に必要な基礎情報を学び、地球上の生態系の仕組みと現状を概説できるようになります。そして、「生態系保全」に対する議論の内容を把握し、議論に参加できるようになることを目指します。	
到達目標 1: 生態学に関する基本用語(例えば、個体、種、生態系)について各100字程度で簡潔に説明できる。 2: 生物の種の発生と絶滅の仕組みについて、各200字程度で簡潔に説明できる。 3: 生物の種内および種間関係について、200字程度で簡潔に説明できる。 4: 生物多様性とは何か、3つのレベルごとにその意味と保全の意義について200字程度で簡潔に説明できる。 5: 現在の地球上の生態系の現状を200字程度で簡潔に説明したうえで、その保全策について500字程度で議論できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
[授業の方法] 原則として、対面授業により進行します。なお、感染症の拡大、その他時勢によりオンライン講義やハイフレックス形式による講義とすることがあります。カダサポやMoodle、その他手段による講義連絡を注視してください。毎回の講義冒頭で、前回の内容を振り替えることを目的としたミニクイズ(匿名・選択式、成績評価に影響なし)を実施します。ミニクイズに参加できるよう、インターネットに接続可能なデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPCなど)を持参してください。	
[授業計画] 全15回の講義を通じて、下記のトピックについて解説します。ただし、ミニクイズを通して理解度を把握し、進行を調整することがあります。 なお、初回講義の前半は講義全体のガイダンスを行います。	
1. イントロダクション: 生物とは何か? (生物、栄養段階) 第1部 生物学から生態学へ 2. 生物のとなえかた1: 生物をかたちづくるもの(細胞、組織、器官、個体) 3. 生物のとなえかた2: 生物の種を把握する(種、学名、ドメイン説) 4. 生物の集団のとなえかた(個体群、群集、生態系、景観) 第2部 生物がくらす地球(自然地理学・生物地理学) 5. 地球上の環境のなりたち(地軸、大気候、大陸移動説) 6. 地球上の生物の分布(バイオーム、Köppenの気候区分、土壌) 第3部 生物同士の関わり方(個体群生態学・生態系生態学) 7. 生物同士の関わり方1: 生存のための“戦い”(種内関係、種間関係、競争、食物網、10%の法則) 8. 生物同士の関わり方2: “奪う”ことも“分け合う”こともある(資源、共生、寄生) 第4部 種の“誕生”と“消失”(進化生態学) 9. 種はどうやって“生じる”のか1: 生物の種とは何か?(種分化、生殖隔離) 10. 種はどうやって“生じる”のか2: “新種”はどうやって現れるのか?(進化、突然変異、適応度) 11. 種はどうやって“生き残る”のか(適応、適者生存、形質) 12. 生物の数の変化(個体群サイズ、遺伝子浮動、Hardy-Weinbergの法則) 13. 種はどうやって“消える”のか(絶滅、Bottle-neck effect、絶滅の渦) 第5部 生態系とのつきあい方(保全生態学) 14. 生物多様性とは(遺伝的多様性、種多様性、生態系の多様性) 15. 生物多様性に迫る4つの危機(開発、アンダーユース、外来種、気候変動)	
[学習の方法] 事前学習: 各回2時間程度の学習を想定します。 ・講義に先んじて、Web上で講義資料を配布します。シラバス、あるいは講義資料に記載された専門用語3個以上について、自身でその定義を調べ、簡潔に説明してください。 ・講義資料には、トピックごとに総括のヒントとなるページを準備します。総括ページには問いかけと記述用の空欄を設けますので、各回の講義資料全体を踏まえて自身で記述を試みてください。	

事後学習：各回1.5時間程度の学習と、全体を通じて7時間程度の総括を想定します。

- ・講義中の解説を聞き、事前学習で調べて把握した専門用語の意味、および総括ページの記述に違いが出たかどうかの把握などを通し、講義内容の理解を深めてください。
- ・改めて、講義中に紹介した専門用語3個以上について、講義内容の復習及び自己学習を行い、その定義を簡潔に説明してください。

教科書・参考書等

講義中に資料を配布して進行し、参考資料は適宜紹介します。したがって教科書の指定は行いません。

以下に講義全体を通じて参考となる書籍を紹介しますので、ぜひ読んでみてください。

- ・D. サダヴァほか 著，石崎泰樹・斎藤成也 監訳（2014）カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第5巻 生態学．講談社，240p.
- ・M. Begon・J. L. Harper・C. R. Townsend 著，堀道雄 監訳（2013）生態学 個体から生態系へ（原著第四版）．京都大学学術出版会，1100p.

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義では、時間が限られているため、各学術分野のすべてを概説することはできません。シラバスに記載された、あるいは講義中に新しく理解した専門用語や内容をもとに、自身でも積極的に関連分野の学習に取り組んでください。

また、生態系保全のニュースは日々報じられています。日本語に訳された情報も多いので、ぜひシラバスに記載された、あるいは講義中に新しく理解した専門用語を検索して、最新情報の取得を試みてください。

授業科目名 国際協力論A Introduction to international cooperation A	時間割 10月2日(木)～11月27日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 木下 康光	10月30日(木)は、振替授業で月曜日の授業になりますので、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)	
授業の概要 【キーワード】 開発途上国、国際協力、開発協力、開発、持続可能な開発目標(SDGs) この授業では、21世紀の社会の諸課題として開発途上国が抱える貧困、環境など一国だけでは解決できない課題(地球規模課題)を取り上げます。開発途上国における「持続可能な開発目標(SDGs)」の概要、SDGsに挙げられている様々な地球規模課題の例を取り上げ、課題の解決のために日本と国際社会が行う国際協力/開発協力の取り組みについて解説するとともに、私たち地球市民として何ができるのか共に考えていきます。	
授業の目的 この授業では、開発途上国が直面する様々な問題・課題について知識を深めていきます。開発途上国の課題解決のために、日本や国際機関、他国等国際社会が実施する国際協力/開発協力に関する考え方や方法・手法を理解し、地球市民として課題解決にあたる意識や考え方を向上していくことを目的とします。	
到達目標 1. 日本や国際社会が開発途上国に対して国際協力/開発協力を行うことがなぜ必要なのかについて説明できるようになる。 2. 日本や国際社会が開発途上国で実施する「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた協力について説明できるようになる。 3. 開発途上国の課題解決のために日本や地域社会が取り組むことができる方法を具体的に考察し提案することができるようになる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業の方法】 ・この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、一部を遠隔授業に変更する可能性があります。 ・授業は原則としてパワーポイント資料を用いた講義形式を中心とします。毎回のトピックに関連する映像資料を使用することがあります。 ・国際協力/開発協力の事例について理解を深めるため、開発途上国の現場で活躍する国際協力機構(JICA)の職員、JICA協力隊経験者、またはJICA外の組織で国際協力/開発協りに携わった経験のある講師を招いて授業を行うことがあります。 ・Moodleを利用して受講生と教員の間の双方向のコミュニケーションをとりながら授業を進めることがあります。受講生の積極的な意見等のインプットによる貢献を期待します。 ・毎回、授業で学んだことをもとに自身の意見、質問等をミニレポートにまとめて提出してもらいます。ミニレポートの提出締切は、授業の最後の数十分間を使って作成し授業終了時に締め切りとする回、または授業日以降に締め切りを設定する回の二つのパターンを予定しています。(2024年度は後者がほとんどでした。)いずれの場合においても、次回授業の冒頭でいくつかのミニレポートの内容を紹介、質問に回答することで、受講生と教員の間で双方向の議論ができるようにしていきます。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション(国際協力/開発協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上国の現状 第3回 国際協力/開発協力の担い手と協力の手法(スキーム、ツール) 第4回 開発途上国における持続可能な開発目標(SDGs) 第5回 開発途上国で国際協力/開発協力の現場で働いた経験者(JICA協力隊等)の体験談 第6回 ケーススタディ(1):SDGsゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」の達成を目指す国際協力プロジェクト 第7回 ケーススタディ(2):SDGsゴール4「質の高い教育をみんなに」の達成を目指す国際協力プロジェクト 第8回 まとめ(45分) 上記は予定であり、世界で起きている問題に応じて内容を変更していきます。特に、第6回と第7回のケーススタディは、受講生の関心分野等によってとりあげるSDGsの分野を変更する可能性があります。 【自学自習の方法】 ○世界(特に開発途上国/地域)の動きについて、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、自分なりの疑問をもち、積極的に調べたり、読んだりする。(各回につき1時間) ○各回の授業後:講義資料をふり読み読んで理解を深める。学んだことをミニレポートにまとめ、自分の意見、質問・疑問等を書いて提出する。各回につき1時間(計8回:予定) ○期末レポート:講義の中で特に興味をもったテーマについて、自身で文献やウェブサイト等を掘り下げて調べ、	

自分自身の問題意識について議論する。(3時間以上)

【自学自習のためのポイント・アドバイス】

第1回 「国際協力／開発協力」とは何か。なぜ、日本や世界の各国や地域は何故お互いに協力していかなければならないのか、自分の考えを整理してみましょう。

第2回 開発途上国とは何か。どこにあるのか。自分が関心をもつ開発途上国1か国以上の現状について調べて、それらの国の課題を特定してみましょう。

第3回 国際協力／開発協力を担う人材は、どのような組織に所属しどのような仕事をしているのか、また国際協力／開発協力のメニュー（ツール）について調べてみましょう。

第4回 持続可能な開発目標（SDGs）について、日本の外務省、国際協力機構（JICA）、国連等国際機関等のホームページ等から情報を集め、自分自身が関心をもつSDGsの開発目標と課題解決のための実際の取り組みについて調べてみましょう。

第5回 JICAの役割は何か。その中でも特に海外協力隊の具体的な仕事と役割は何か。国際協力機構（JICA）のホームページ等で調べてみましょう。

第6回 SDGsゴール5の内容を調べ、そのゴールに対して国際協力機構（JICA）、国連機関等の国際社会が取り組んでいる仕事について調べてみましょう。

第7回 SDGsゴール4の内容を調べ、そのゴールに対して国際協力機構（JICA）、国連機関等の国際社会が取り組んでいる仕事について調べてみましょう。

第8回 授業7回を通して、自分が最も関心をもった開発途上国とその国の特定の問題・課題を抽出し、どのような手法、アプローチでそれらの問題・課題を解決に導いていくか、自分自身の考えを提案してみましょう。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。随時、参考文献、ウェブサイト等を紹介します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 授業で取り上げた国・地域や自分自身の関心のある国・地域の理解を深めるため、自分自身で書籍やインターネット等を探求していくことを期待します。

2. 国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方受講することは可能です。国際協力論Aでは、国際協力全般（いわば基礎編）について扱います。国際協力論Bでは、世界を地域・国毎に分けてそれぞれにおける問題・課題について扱います。両者には一部重複するところがあるので留意してください。

3. 将来、国際協力／開発協力を携わる仕事に関心がある受講生に対しては、担当教員の経験とネットワークをもとにキャリア相談が可能です。

授業科目名 国際協力論B Introduction to international cooperation B	時間割 12月4日(木)～2月12日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 木下 康光	1月15日(木)は、振替授業で金曜日の授業になりますので、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)	
授業の概要 【キーワード】 開発途上国、国際協力、開発協力、開発 授業では、21世紀の社会が抱える諸課題として、開発途上国が抱える課題を地域・国ごとに取り上げ、その解決のために日本/国際社会が行う国際協力/開発協力の実践を解説するとともに、地球市民としてどのように国際協力/開発協力に関わっていくことができるのか共に考えていきます。	
授業の目的 この授業では、開発途上国が抱える様々な問題・課題、開発途上国と日本の関係について知識を深めるとともに、そして日本や国際社会が行う開発途上国への国際協力/開発協力に関する多様な考え方や方法を理解し、私たち地球市民としてともに問題の解決にあたる意識を高めることを目的とします。	
到達目標	
1. 世界の各地域・国(開発途上国・地域)が抱える課題と課題解決のための具体的な実践例の学習に基づき、自分自身が考える国際協力のあり方を考察し説明できるようになる。 2. 世界の各地域・国(開発途上国・地域)が抱える課題を学ぶことを通して、それらの課題と日本や地域社会の課題との関連性を見だし、お互いに学び合えることは何かを見つけることを目指します。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業の方法】 ・この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、一部を遠隔授業に変更する可能性があります。 ・授業は原則としてパワーポイント資料を用いた講義形式が中心です。毎回のトピックに関連する映像資料を使用することがあります。 ・国際協力/開発協力の事例について理解を深めるため、開発途上国の現場で活躍する国際協力機構(JICA)の職員、JICA協力隊経験者、またはJICA外の組織で国際協力/開発協力に携わった経験のある講師を招いて授業を行うことがあります。 ・Moodleを利用して受講生と教員の間の双方向のコミュニケーションをとりながら授業を進めることがあります。受講生の積極的な意見等のインプットによる授業への貢献を期待します。 ・毎回、授業で学んだことと自分自身の意見、質問等をミニレポートにまとめて提出してもらいます。ミニレポートは各回授業の内容によって授業終了時まで提出を求める回、締め切りを後日に設定する回があります。次回授業の冒頭でいくつかの意見を紹介、質問に回答することで、受講生と教員の間で双方向の議論ができるようにしていきます。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション(国際協力/開発協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上地域・国と国際協力の概要 第3回 国際協力/開発協力のケーススタディⅠ(東南アジア地域) 第4回 国際協力/開発協力のケーススタディⅡ(南アジア地域) 第5回 国際協力/開発協力のケーススタディⅢ(中東地域) 第6回 国際協力/開発協力のケーススタディⅣ(アフリカ地域) 第7回 国際協力/開発協力のケーススタディⅤ(欧州地域) 第8回 まとめ(45分) 第3回から第7回のケーススタディは計画です。世界で起きている問題に応じて内容を変更していきます。参考までに2024年度の実績を以下に示します。 <2024年度実績> 第3回 ウクライナ(外部講師招へい) 第4回 パレスチナ(外部講師招へい) 第5回 モロッコ(外部講師招へい) 第6回 東南アジア 第7回 アフリカ(外部講師招へい) 【自学自習の方法】 ○世界(特に開発途上国/地域)の動きについて、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、自分なりの疑問をもち、積極的に調べたり、読んだりする。(各回につき1時間) ○各回の授業後:講義資料をふり読み読んで理解を深める。学んだことをミニレポートにまとめ、自分の意見、質問・疑問等を書いて提出する。各回につき1時間(計8回:予定)	

○期末レポート：講義の中で特に関心をもったテーマについて、自身で文献やウェブサイト等を掘り下げて調べ、自分自身の問題意識について議論する。（3時間以上）

【自学自習のためのポイント・アドバイス】

第1回 「国際協力／開発協力」とは何か。なぜ、日本や世界の各国・地域は何故お互いに協力していかなければならないのか、自分の考えを整理してみましょう。

第2回 開発途上国とは何か、どのように分類されているのか、どのような組織・団体が国際協力／開発協力を行うのか、国際協力／開発協力のプレイヤー、実施手法にはどのようなツールがあるのか等について、日本の外務省、国際協力機構（JICA）等のホームページから調べてみましょう。

第3回～第7回 世界の開発途上国の地域・国毎に国際協力／開発協力の事例を見ていきます。それぞれの地域に位置する国々の中から自分が関心をもった1～2か国を選び、その国の歴史、文化、経済・社会開発状況をまとめ、どのような問題・課題があり、どのような国際協力の事業が行われているか調べてみましょう。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 授業で取り上げた国・地域や自分自身の関心のある国・地域の理解を深めるため、自分自身で書籍やインターネット等を探求していくことを期待します。

2. 国際協力論B（第4クォーター開講）と国際協力論A（第3クォーター開講）を両方受講することは可能です。国際協力論Aでは、国際協力全般（いわば基礎編）について扱います。国際協力論Bでは、世界を地域・国毎に分けてそれぞれにおける問題・課題について扱います。両者には一部重複するところがあるので留意してください。

3. 将来、国際協力／開発協力に携わる仕事に関心がある受講生に対しては、担当教員の経験とネットワークをもとにキャリア相談が可能です。

授業科目名 子どもの視座から教育を考える Thinking about Education from a Child's Viewpoint	時間割 12月4日(木)～2月12日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回) 1月15日(木)は、振替授業で金曜日の授業になりますので、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
担当教員名 山岸 知幸	
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)	
授業の概要 【キーワード】 教育問題、教育課題 この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(子ども論、教師論、部活動論)に焦点を当て、資料(文献・新聞記事)を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。	
授業の目的 21世紀社会でも様々な教育改革が進み、それらへの対応が求められている。自己の経験・体験を大切にしつつも、教育改革の変遷の歴史の中で現在の教育を理解し、また客観的に教育課題の本質的なものを発見できるようになる。	
到達目標	
1. 戦後教育改革の歴史の文脈の中で、教育問題を考えることができる。 2. 教育問題の中から、その本質的な「課題」を発見できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1回 我が国における「教育」の変遷－戦後新教育から現在まで－ 第2・3回 子ども論－受容とは、子ども理解とは－ 第4・5回 教師論－教師の資質・能力とは、教師の役割とは－ 第6・7回 部活動論－個と集団との関係性とは、部活動の意味とは－ 第8回 まとめと小レポート作成 【授業及び学習の方法】 配付資料を精読し(個人ワーク)、その上で、グループで意見交流・討論(グループワーク)を行います。グループでの意見を集約し発表してもらいます。その後、質疑・応答を行うかたちで授業を進めます。 配付資料を何度も読み返し精読してください。グループ発表で出てきた視点も参考にしつつ、自己の考えをより深めてください。 この科目は原則として対面で授業を行います。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 我が国の戦後教育史の年表を各自の視点から完成させる。(3時間) 第2・3回 配付資料を精読するとともに、近年の受容や子ども理解に関わる論文もしくは著書を探し、比較・検討しながら考察する。(9時間) 第4・5回 近年の教師論に関わる論文もしくは著書を探し、授業時に紹介できるように整理・準備する。(9時間) 第6・7回 それぞれが興味をもっている部活動に関わる新聞記事を集め、授業時に紹介できるように整理・準備する。(9時間)	
教科書・参考書等 毎時資料を配付します。参考書は随時紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 配付資料を精読すること、グループ討議では積極的に意見交流することに努めてください。復習がとりわけ重要になります。	

授業科目名 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理 Disaster mitigation and crisis management using data science	時間割 10月2日（木）～12月2日（火） 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階（25ページ参照）にお越しください。
担当教員名 野々村 敦子. 梶谷 義雄. 金田 義行. 寺尾 徹	
学習時間 授業90分×7回＋授業45分＋自学自習（準備学習 16時間 + 事後学習 16時間）	
授業の概要 【キーワード】データサイエンス、防災・減災、危機管理 日本は地震や台風など大きな自然災害による被害を受けている。環境変化により従来にない大規模自然災害が発生する可能性が高まり、さらには社会システムの高度化・複雑化・国際化にともない、これまでにない災害が発生する危険性も増大している。いま、自然・人為的な災害に対応可能なレジリエント（しなやか）な社会の構築が求められている。本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。	
授業の目的 レジリエント（しなやか）な社会の構築に向け、防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を学び、さらに、データサイエンスに立脚した地域の安全・安心を議論できるようになる。	
到達目標 1. レジリエント（しなやか）な社会とは何かを説明できる。 2. 防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を説明できる。 3. 地域における災害に対する安全・安心を、自分の言葉で説明できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 強非線形現象に対する推移予測研究の試み（金田義行） 第2回 地球温暖化に伴う気候変動の検出とそのリスクの見積もりに係わるビッグデータ解析（寺尾徹） 第3回 ビッグデータを用いた地球温暖化にともなう現在気候に対する将来気候の評価（寺尾徹） 第4回 移動体・画像解析技術による災害復旧過程の分析（梶谷義雄） 第5回 流量予測への深層学習の適用と豪雨災害リスクの評価（梶谷義雄） 第6回 データサイエンスを活用した防災・危機管理 ～地形情報の活用 基礎編～（野々村敦子） 第7回 データサイエンスを活用した防災・危機管理 ～地形情報の活用 実践編～（野々村敦子） 第8回 まとめ 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、地域における災害に対する安全・安心に結びつけるためにどのような能力が必要か、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/ 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 強非線形現象について他の事例を調べて理解を深める（5時間） 第2～3回 地球温暖化対策の経緯とこれまでに行われてきた対策についても学び理解を深める（10時間） 第4～5回 災害からの復旧復興について事例を調べて理解を深めて災害リスク把握の意義を考える（10時間） 第6～7回 講義で取り上げた地域以外でも地形情報の活用を実践する（10時間）	
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義は、e-learning形式での提供となります。	

授業科目名 知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション Building a resilience society and computer simulation	時間割 10月2日(木)～12月2日(火) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
担当教員名 岡崎 慎一郎、地元 孝輔、宮本 慎宏	
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)	
授業の概要 【キーワード】データサイエンス、レジリエンス、コンピューターシミュレーション コンピューターシミュレーションは、「第3の科学」とも言われ、自然科学、工学、経済学、社会科学における理論システムを数理モデルで表現し、コンピューターを用いて仮想実験や事象予測を行う技術である。今日では、製造業における工業製品の設計や新規材料の開発、自然現象の解明による災害対策、社会インフラ整備のための構造物設計・安全評価、金融・ビジネスにおけるマーケティングなど多様な分野において欠かすことができない。とりわけ、ビッグデータとAIなどの数理技術との融合により、製品の設計・製造プロセスの最適化、公共インフラの維持と保安水準の向上、津波・地震等の災害予測精度の向上、安価かつ環境性の高い電力・エネルギー製造と供給、テーラーメイド医療・予防サービス普及による医療費削減など、幅広い分野において新しい価値を創造することが期待されている。本講義では、レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要について担当教員がそれぞれの専門分野の立場から説明する。	
授業の目的 レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を学び、さらに、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を議論できるようになる。	
到達目標 1. レジリエントな(強靱化)社会とは何かを説明できる。 2. レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を説明できる。 3. コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を、自分の言葉で説明できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1週 AI等を用いた社会インフラのヘルスチェック(岡崎慎一郎) 第2週 大規模シミュレーションが可能とする社会インフラの長寿命化(岡崎慎一郎) 第3週 振動シミュレーションに基づく建築物の安全性評価(宮本慎宏) 第4週 地盤モデルを用いた地盤震動シミュレーション(地元孝輔) 第5週 震源モデルを用いた強震動シミュレーション(地元孝輔) 第6週 都市モデルを活用した高潮/津波/ため池氾濫シミュレーション(吉田秀典) 第7週 都市モデルを活用した広域避難シミュレーションと復興政策の検討(吉田秀典) 第8週 まとめ 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心の重要性等について、文献等事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。特に、以下に留意して学習してください。なお、括弧内は、自学自習時間の目安です。 第1週 社会インフラにおけるヘルスチェックの事例を調べて理解を深める(5時間) 第2週 社会インフラの長寿命化の意義を考える(5時間) 第3週 建築物の安全性評価の重要性について考える(5時間) 第4週 地盤震動におけるシミュレーションの必要性について考える(5時間) 第5週 地震学/地震工学におけるシミュレーションの必要性について考える(5時間) 第6週 高潮/津波/ため池の氾濫におけるシミュレーションの意義について考える(5時間) 第7週 災害時の避難に関する課題点を調べ、その解決方法について自身なりの考えをまとめる(5時間) 第8週 レジリエントな社会の構築に関して、講義で取り上げた以外の事案についても、どのようにシミュレーションが活用されているのかを調べ、その意義、必要性、重要性について理解を深める(2.5時間) 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 https://chip-la-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/	
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義は、e-learning形式での提供となります。	

授業科目名 知プラe科目 災害とデータサイエンス Disaster and Data Science	時間割 10月2日(木)～12月2日(火)
担当教員名 石塚 正秀, 磯打 千雅子, 白木 渡, 竹之内 健介	初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)	
授業の概要 【キーワード】 データサイエンス、災害、防災・減災 防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについて、災害前(災害が起こっていない日常の時点と、災害が起こる直前)と災害後(直後、そしてライフライン復旧が求められる事後)という2つのステージでの議論が重要である。「災害前」としては、例えば、気象データなどは、雨量や温度、湿度、気圧などのデータが各地の気象観測所で集められ、また人工衛星から、可視光線、赤外線、電波などのセンサーを使って地表や地中を観測しデータが収集されている。このようにローカルからワールドワイドにいたる様々なデータを活用し、各種の災害情報が作成され、防災や減災に役立てられる。「災害後」としては、被災地に近い定点観測地点や衛星からのデータ、そして現場周辺のユーザーが発信しているデータなどが避難等に重要である。また、オープンデータの活用によって、国や自治体等と住民が連携しながら二次災害の減災に寄与することもできる。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。	
授業の目的 レジリエントな(強靱化)社会構築において重要なデータ(常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等)の収集・活用方法を学び、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心を議論できるようになる。	
到達目標 1. 災害前と災害後におけるデータの活用の違いが何かを説明できる。 2. 災害前におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。 3. 災害後におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1週 ビッグデータでみる地球環境(石塚正秀) 第2週 ビッグデータでみるWater Risk(石塚正秀) 第3週 オープンデータから見るまちの強み弱み診断と地区防災計画、事業継続計画BCPへの活用(磯打千雅子) 第4週 リスクコミュニケーションとデータサイエンス(竹之内健介) 第5週 ローカルデータとデータサイエンス(竹之内健介) 第6週 自助・共助・公助ならびに災害レジリエンスの強化とデータサイエンス(白木渡) 第7週 リスクマインドと心のレジリエンス(白木渡) 第8週 まとめ(石塚正秀) 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 第1～2回 地球環境・水危機に対するビッグデータの利用について理解を深める(10時間) 第3回 地区防災計画、事業継続計画BCPに対するオープンデータの活用について理解を深める(5時間) 第4～5回 リスクコミュニケーションとローカルデータについて理解を深める(10時間) 第6～7回 災害レジリエンスとリスクマインドについて理解を深める(10時間) 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/	
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義は、e-learning形式での提供となります。	

授業科目名 憲法入門 Introduction to Constitutional Law	時間割 10月2日(木)～2月5日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 岸野 薫	10月30日(木)、1月15日(木)は、振替授業で月曜日、金曜日の授業になりますので、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習45時間)	
授業の概要 本学部では、憲法科目として、1年次に総論(憲法入門)、2年次前期に統治論(憲法Ⅰ)、2年次後期に人権論(憲法Ⅱ)が開講されている。総論分野を扱う本授業では、憲法の基礎理論を概観したのち、日本国憲法の歴史及び基本原理(国民主権・象徴天皇制、平和主義等)について判例・学説を通じて理解を深めるための授業を行う。	
授業の目的 本授業の目的は、近代憲法の基盤となる思想、すなわち立憲主義とは何かを理解し、さらに、日本国憲法の歴史及び基本原理に関する基礎知識を習得することである。それらの学習を通じて、次のステップである「憲法Ⅰ」および「憲法Ⅱ」で扱う個々の条文理解を、より深めることができるであろう。	
到達目標 ①重要な判例・学説について説明することができる。 ②論点を的確にとらえ、法的に問題を考察することができる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 憲法の基礎理論(1) 憲法の意味と分類 第3回 憲法の基礎理論(2) 近代立憲主義の内容 第4回 憲法の基礎理論(3) 憲法の規範としての特質 第5回 日本国憲法史(1) 明治憲法の特徴 第6回 日本国憲法史(2) 日本国憲法の制定 第7回 中間試験 【注】 中間試験の実施時期は授業の進捗状況によって前後します。正式な実施日は授業の中で伝えます。 第8回 国民主権 第9回 象徴天皇制 第10回 平和主義(1) 平和主義と平和的生存権 第11回 平和主義(2) 憲法9条の解釈 第12回 平和主義(3) 憲法9条をめぐる裁判 第13回 憲法保障 第14回 憲法改正 第15回 まとめ 【授業の方法】 授業レジュメに沿って講義形式で授業を行います。 ※この科目は全回対面授業を行います。 【自学自習のためのアドバイス】 基本的に、準備学習(予習)より事後学習(復習)に力点を置いてください。 その回の内容及び理解度によりませんが、1～2時間程度をかけ、授業ノートを整理し、理解が不十分なところを参考書で補ったり、授業で扱った最高裁判例を判例集等で更に読み深めたりするとよいでしょう。	
教科書・参考書等 教科書の指定は行いません。 初回に参考文献一覧を配布します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、「授業の概要」に記したように、人権や統治といった日本国憲法の本丸部分は、「憲法Ⅰ」、「憲法Ⅱ」で学ぶため、本授業では扱わないことをご承知おきください。	

授業科目名 政治思想 Political Thought	時間割 10月3日(金)～1月30日(金) 毎週金曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 金子 太郎	1月15日(木)は振替授業で金曜日の授業になりますので、授業はあります。10月24日(金)、1月16日(金)は臨時休業で、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習(予習は不要。復習としてその日に配布されたプリントを1時間はかけて読み返して下さい。)	
授業の概要 19世紀から20世紀終わりまでの政治思想、経済思想を扱う。「政治思想」という科目名なのに経済思想も併せて扱うのは、そうしないとこの時代を理解することは不可能だからである。前半は政治思想、後半は経済思想を中心に講義する。 前半の政治思想については、いきなり19世紀から話を始めるのは無理があるので、17世紀から話を始める。17世紀の自由主義の始まりから話を始めて、18世紀の人民主権、19世紀以降の自由民主主義について講義する。 後半は主に経済思想について講義する。資本主義、社会主義、共産主義、帝国主義、ケインズ主義、開発主義、市場主義などについて、最低限の政治史の内容と併せて講義する。 【他の授業科目との関連】 「政治学入門」では簡単に触れた程度の政治思想について、そのもとの本・古典を読みながら理解を深める。この時代より前の時代の法思想、政治思想については「法思想史」で聞いて欲しい。世界史の近現代史については「国際関係論」「政治史」で聞いて欲しい。	
授業の目的 19世紀から20世紀という時代に様々な思想がどのように生まれ、展開していったかを大まかな政治史とともに理解すること。	
到達目標 19世紀～20世紀の世界史を政治思想、経済思想の観点から大掴みに理解できるようになること。どういう思想が歴史のどういう経緯で生まれ、どう展開して行き、どういう経緯である思想は生き残り、ある思想は消えて行ったかを理解すること。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス プリントを配布し、口述と板書で説明をしながら進める。プリントの量が非常に多くなるが、これは口述と板書だけで講義する場合よりも伝えられる情報量が何倍也多くなるからである。また政治思想の古典や面白い本を読むきっかけにもなって欲しいと思ってやっていることなので、容赦して欲しい。 (1) イントロダクション (9) 資本主義 (2) 自由主義(1) ロック (10) 社会主義、共産主義；帝国主義 (3) 自由主義(2) モンテスキュー (11) ケインズ主義 (4) 人民主権 ルソー (12) 福祉国家 (5) 保守主義 バーク (13) 開発主義 (6) 自由民主主義 コンスタン (14) 市場主義 (7) 「多数の暴政」 トクヴィル (15) まとめ(比較政治経済体制の視座) (8) 古典的自由主義の完成 J.S. ミル と選挙権の拡大 【おことわり】 前期の「政治学入門」との連続性を考えて、後半の経済思想の部分と前半の政治思想の部分を入れ替えて講義します。前期の「政治学入門」が1945年の日本の敗戦までなので、「政治思想」では戦後のアジア史をふり取りながら経済思想の話をします。 【自学自習に関するアドバイス】 予習は必要ありませんが、復習として講義で配布したプリントを1時間くらいかけてよく読み返して下さい。 【授業の形態について】 この科目は全回対面授業を行う。ただし、状況によっては全てまたは一部の回の授業形態を遠隔配信へと変更する可能性がある。	
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 参考書は福田歓一『政治学史』(東大出版会)、猪木武徳『経済思想』(岩波書店)、ヤーギン&スタニスロー『市場対国家』(日経文庫)	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	

授業科目名 国際関係論 International Relations	時間割 10月6日(月)～2月2日(月) 毎週月曜日 16時20分～17時50分(計15回)																
担当教員名 鶴園 裕基	10月14日(火)、30日(木)、11月24日(月)、1月14日(水)は振替授業で月曜日の授業になりますので、授業はありません。10月27日(月)は臨時休業で、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。																
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(60時間)																	
授業の概要 第二次世界大戦終結以後、東西冷戦を経て成立した現代の国際秩序は、いま厳しい挑戦にさらされている。これからの国際社会そして日本はどのように動いてゆく(べき)か。また国際社会を構成する国民国家の一市民として、この状況をいかに理解すればよいのか。以上の問題意識に基づいて、本講義では国際関係論の基礎的な内容を、理論と歴史を包括しつつ紹介していく。また本講義は政治学系に属する基礎科目であるため、平和学、政治史、アジア・太平洋社会論等の科目の知識との関連付けを意識しながら学習することを推奨する。																	
授業の目的 国際関係についての概念的な理解の上に、第一次世界大戦以降の国際関係史を把握する。そして国際関係の分析アプローチとしていかなる方法があるのか、それぞれどのような特徴があるのかを知る。																	
到達目標 1. 国際関係の理論と歴史のそれぞれの基本的な特徴を説明できる。 2. その上で、現代の国際関係の諸問題に対して自ら情報を探索できるようになる。 3. 国際政治の専門家の分析を批判的に理解できるようになる。																	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス																	
<table border="0"> <tr> <td>第1週 導入</td><td>第9週 グローバル化する冷戦と相次ぐ危機</td></tr> <tr> <td>第2週 第一次世界大戦への過程</td><td>第10週 デタントから冷戦終結まで</td></tr> <tr> <td>第3週 第一次世界大戦とその帰結</td><td>第11週 リアリズム・リベラリズムとその派生理論</td></tr> <tr> <td>第4週 ワシントン体制とヴェルサイユ体制</td><td>第12週 ポスト冷戦期の国際関係</td></tr> <tr> <td>第5週 国際連盟とその挫折</td><td>第13週 コンストラクティビズムと英国学派</td></tr> <tr> <td>第6週 理想主義vs. 現実主義</td><td>第14週 現代国際政治の諸問題</td></tr> <tr> <td>第7週 第二次世界大戦への道</td><td>第15週 まとめ</td></tr> <tr> <td>第8週 大戦の終結との冷戦のはじまり</td><td></td></tr> </table>		第1週 導入	第9週 グローバル化する冷戦と相次ぐ危機	第2週 第一次世界大戦への過程	第10週 デタントから冷戦終結まで	第3週 第一次世界大戦とその帰結	第11週 リアリズム・リベラリズムとその派生理論	第4週 ワシントン体制とヴェルサイユ体制	第12週 ポスト冷戦期の国際関係	第5週 国際連盟とその挫折	第13週 コンストラクティビズムと英国学派	第6週 理想主義vs. 現実主義	第14週 現代国際政治の諸問題	第7週 第二次世界大戦への道	第15週 まとめ	第8週 大戦の終結との冷戦のはじまり	
第1週 導入	第9週 グローバル化する冷戦と相次ぐ危機																
第2週 第一次世界大戦への過程	第10週 デタントから冷戦終結まで																
第3週 第一次世界大戦とその帰結	第11週 リアリズム・リベラリズムとその派生理論																
第4週 ワシントン体制とヴェルサイユ体制	第12週 ポスト冷戦期の国際関係																
第5週 国際連盟とその挫折	第13週 コンストラクティビズムと英国学派																
第6週 理想主義vs. 現実主義	第14週 現代国際政治の諸問題																
第7週 第二次世界大戦への道	第15週 まとめ																
第8週 大戦の終結との冷戦のはじまり																	
【授業及び学習の方法】 講義形式で授業を行う。講義は教員作成のレジュメに基づいて進める。授業参加者にはコメントペーパーの提出を求める。授業中・コメントペーパーの質問は授業への参加度として評価する。 【自学自習のためのアドバイス】 《予習》 指定した教科書の講義関連箇所とレジュメを読んでおく。講義の内容と関連しそうな国際関係に関するニュースをフォローしておき、講義を受けるに際しての自らの問題意識を設定しておく。 《復習》 講義内容に関連したニュース記事や文献を探索して読み(レジュメ内の参考文献リストを利用してもよい)、講義で学んだ内容を掘り下げる。 《予習・復習時間の目安》 テキストやニュース記事をどのくらい時間をかけて読むかは、各人の能力や問題関心に応じて変わるものである。あるチャプターを30分で流し読みして「分かったフリをする」ことも可能だろうし(これはこれで重要なスキルの一つである)、ある一つのニュース記事について、30時間かけて「何がわからないかを徹底的につきつめる」必要がある場合もある。どのように予習・復習に取り組むかは本授業に取り組む各人の主体性に任せられている。																	
教科書・参考書等 《教科書》 小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ 新版』(有斐閣、2024)、2300円+税 《参考書》 白鳥潤一郎、高橋和夫『現代の国際政治』(放送大学教育振興会、2022)、1900円+税 ナイ、J.、ウェルチ、D. (田中明彦、村田晃嗣訳)『国際紛争-理論と歴史 原書第10版』(有斐閣、2017)、3000円+税																	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 高校世界史・日本史の近代史に関する知識あれば本講義を受講する上で役にたつが、高校でこれらを選択していなくても問題なく理解できるよう講義する。																	

授業科目名 法学入門【(夜間主)】 Law for Beginners	時間割 1 2月8日(月)～2月9日(月) 毎週月曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 山本 陽一	1月14日(水)は振替授業で月曜日の授業になりますので、授業はあります。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)	
授業の概要 この授業は、田中成明「法学入門」(第3版)を通読することにより、法学全般に共通する基礎的事項を学習します。	
授業の目的 法学を学ぶ上で必要となる基礎的知識につき、正確に理解し、説明できるようになることを目的とします。	
到達目標 1. 受講者は、法システムのおもな特色を理解する。 2. 受講者は、法学にかんする基本的概念を説明できる。 3. 受講者は、判例を読解することができる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
下記の計画は、授業の進度により変更することがあります。この科目は全回対面授業を行います。なお、状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。 第1回 法へのアプローチ。どのような法があるか。 第2回 法の機能 第3回 日本の法制度と法文化 第4回 法と強制 第5回 権利と人権 第6回 法と道徳 第7回 法と正義 第8回 裁判制度 第9回 裁判の機能 第10回 裁判過程と法の適用 第11回 法の解釈 第12回 法的思考と法律学と法学 第13回 日本の法律家 第14回 法の考え方と用い動かし方 第15回 まとめ (以上は、教科書のもくじによる。このほか、関連資料を配布する。) ■自学自習のアドバイス 事前学習：学習時間の目安：各回2時間程度 事後学習：学習時間の目安：各回2時間程度	
教科書・参考書等 田中成明「法学入門」第3版(有斐閣)本体2,300円を生協で購入してください。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 特になし。	

授業科目名 経済学入門A Introduction to Economics A	時間割 10月3日(金)～11月28日(金) 毎週金曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回) 10月24日(金)は臨時休業で、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(25ページ参照)にお越しください。
担当教員名 星野 良明	
学習時間 授業90分×15回+ 自学自習(準備学習22.5時間+事後学習37.5時間)	
授業の概要 はじめて経済学を学ぶ学生を対象として、ミクロ経済学の基本的な考え方を解説します。ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学という学問の立場から様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。マクロ経済学が一国の景気状況や失業率など経済全体の活動に注目するのに対して、ミクロ経済学は経済を構成する個々の企業や家計の行動に注目します。そして個々の経済主体の行動(最適化)と相互依存関係を考慮して、モノやサービスの市場や産業を分析します。	
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを理解します。	
到達目標 1. 完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 2. ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動や家計の消費行動が市場価格にどのように反応するかを説明できる。 3. 市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを部分均衡の枠組みを用いて説明できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 (1) 需要と供給(1): 経済と経済学 (2) 需要と供給(2): 需要・供給曲線 (3) 需要と供給(3): 市場均衡 (4) 消費者行動と需要曲線(1): 支払意思額 (5) 消費者行動と需要曲線(2): 限界効用 (6) 消費者行動と需要曲線(3): 消費者余剰 (7) 企業行動と供給曲線(1): 販売意思額 (8) 企業行動と供給曲線(2): 限界費用 (9) 企業行動と供給曲線(3): 生産者余剰 (10) 市場取引と資源配分(1): 市場均衡点 (11) 市場取引と資源配分(2): 社会的余剰 (12) 独占の理論(1): 独占均衡 (13) 独占の理論(2): 市場の失敗 (14) ゲームの理論(1): 戦略形ゲーム (15) ゲームの理論(2): 展開形ゲーム ※進行状況により若干の変更をする可能性があります。 【授業及び学習の方法】 ・授業は講義形式で行います。ほぼ毎回、理解度を確認するため小問を解く時間を設けます。 ・この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 【自学自習に関するアドバイス】 ・受講講生は復習を重視した自学自習を行ってください。授業内容は連続しているので、授業前には必ず、前回の内容を再確認してください。(1.5時間×15回) ・授業後には講義内容と確認クイズの復習、そして宿題に取り組み、作図や計算を自分の手で行うことで、自分の理解を確認してください。(2時間×15回) ・経済学的な考え方の習得には、単に授業内容を学習するだけでなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連を考える、つまり理論の世界と現実の世界の間で往復思考を行う姿勢が不可欠です。(0.5時間×15回)	
教科書・参考書等 【教科書】 使用しません。授業資料をMoodleに公開します。 【参考書】 市野泰和(2015)『心と体にすーっとしみこむミクロ経済学』中央経済社。 伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』第2版, 日本評論社。 佐々木宏夫(2008)『基礎コース ミクロ経済学』新世社。 八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 授業は積み上げ式で進みますので、わからない点があったら、そのままにせずに解決していく姿勢が大切になります。 2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。	

講 座 名	大学体験授業「科学・技術の面白さを体験しよう」		
開 設 学 部	創造工学部	講師(代表者)	小野 貴史
開 設 期 間	7月23日(水) ～7月25日(金)	講 義 時 間	午前の部:10:00～13:00 午後の部:14:00～17:00
実 施 場 所	創造工学部(林町キャンパス) 2号館、6号館、 ものづくり工房	受入可能人数	各テーマ 25名
講座の趣旨等	創造工学部の教育・研究分野に関する内容を高校生の皆さんに知ってもらい、実験を交えた講義を通して創造工学部の基礎である科学・技術に触れて、その面白さを実感してもらうことを主な目的にしています。(対象とするのは高校1、2、3年生です。) この講座を受講してもらうことで、高校での数学・物理・化学・生物などの勉強が将来の大学での勉強や研究にどのようにつながるかが、高校生の皆さんにわかり易くなると考えています。		
講座の概要等	この講座で取り上げる内容は、創造工学部のスタッフが研究している領域と関連しているものです。内容のレベルは高校の物理・化学の進度を想定して考えています。高校生の皆さんが興味を持てるように、実験・観察およびデモンストレーションをなるべく行うようにしています。実施予定のテーマは以下のようなもので、それぞれ午前または午後の部で完結するようになっています。 <u>1日目(7月23日(水))</u> (午前)「溶けた金属の凝固過程を調べてものづくり体験」 (午後)「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」 <u>2日目(7月24日(木))</u> (午前)「電子オルゴール制作で回路を学ぼう」 (午後)「空気がなくなると...。」 <u>3日目(7月25日(金))</u> (午前)「化学反応を色素の変化で体感しよう」 (午後)「サングラスを作ろう(真空蒸着による薄膜の作製)」 <u>詳細は別紙を見てください。</u>		
参考書等	筆記用具を用意してください。 各テーマについてこちらで準備した資料を配付します。(参考書は必要なし)		
受講上の注意	特に危険な実験等はないので安心して参加してください。また、創造工学部(林町キャンパス)への途上での交通事故などに注意して創造工学部(林町キャンパス)へ来てください。		
高校生へのメッセージ等	各テーマの講義や説明はなるべく平易に行う予定ですが、質問・疑問があるときは気軽に聞いてください。また、実験にも積極的に参加してください。実際に体験することで科学・技術の面白さがより深く分かります。		

別紙

1. テーマ名 「溶けた金属の凝固過程を調べてものづくり体験」

1.1 概要

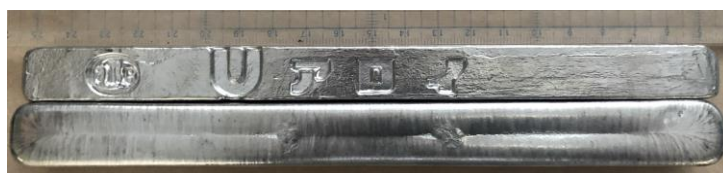
固い金属が溶けてドロドロになるのは、真っ赤になった高温状態と思っているかもしれませんが、湯温以下で液体状態になる金属も沢山あります。固体から液体、液体から固体へ変化する時の特徴について温度変化測定を元に理解します。溶融金属を鋳型に流し込んでものづくりをする鋳造プロセスを体験します。

1.2 講義内容

物質の3態、固体・液体・気体を復習します。純物質・混合物における状態変化を学習します。また、鋳造プロセスについて説明します。

1.3 実験

低融点金属を小さなビーカーに入れ、水を入れた大きなビーカーに浸し、加熱



しながら温度変化を測定します。また同時に状態変化を目で観察します。金属溶融が確認できたら、加熱を停止し、自然冷却させながら、温度測定・状態変化観察を続けます。状態変化と温度変化の関係を整理します。

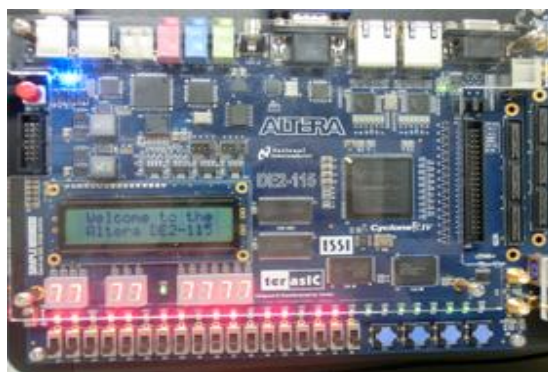
粘土等を用いて鋳型を作製します。これに溶けた金属を流し込み鋳造物を作ります。凝固途中に安全ピンなどを埋め込むことが出来れば、ブローチなどのアクセサリを作ることにも可能です。



2. テーマ名 「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」

2.1 概要

近年、さまざまな電子機器（例えば携帯電話やテレビ等）において使われている集積電子回路（FPGA：書き換え可能なLSI）を用いて、簡単なストップウォッチとルーレットを作製します。コンピューターなどに使われているデジタル回路の演習にもなります。



2.2 講義内容

デジタル回路の話、2進数の説明をした後に、配布するサンプルプログラムを集積電子回路であるFPGAに転送し、LEDを光らせます。次に、簡単な例題を解く演習を行った後に、FPGAを用いてストップウォッチ等の作製を行います。最後にFPGA上に載せたAIによる物体認識のデモを紹介します。

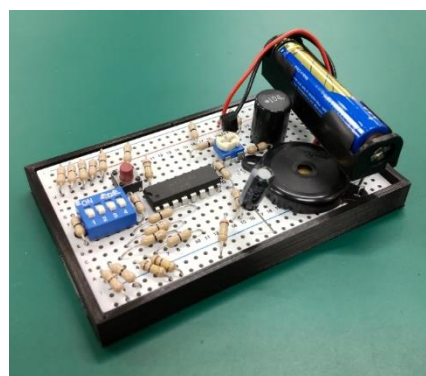
2.3 実験

VHDLと呼ばれるハードウェア記述言語を用いてプログラミングを行い、ストップウォッチとルーレットを作製します。作製したあとで、スイッチを押して動作確認を行います。一人一台の実習ボードを用意しますので、各自のペースで作製できます。

3. テーマ名 「電子オルゴール制作で回路を学ぼう」

3.1 概要

ブレッドボード上に電子部品を配置することで製作できる電子オルゴールキットを用いて、電子回路の仕組みを体験してもらいます。その後にブレッドボードと同じ配線パターンをしたユニバーサル基盤へ部品の取り付け及びはんだ付けを行い、オルゴールを完成させます。



3.2 講義内容

抵抗やコンデンサ、トランジスタなど電子部品の基本的な話をはじめ、回路内での各電子部品の働きを説明しつつ、オルゴール IC のデータシートを読み解きながら回路の動きを学んでいきます。さらに基盤を収納するケースの作成に使用した 3D プリンタについても紹介します。

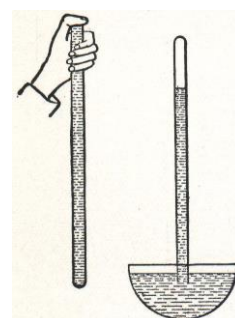
3.3 実験・工作

ブレッドボード上に各種電子部品を差し込み、回路を試作します。また、電子部品の組み換えを行い部品の違いによる動作への影響についても実験します。実験後、基板上に部品を移してはんだ付けを行い完成させます。完成した回路は持ち帰ることが出来ます。

4. テーマ名 「空気がなくなると...。」

4.1 概要

空気がなくなった状態を「**真空**」と言います。古代ギリシャの科学者アリストテレスが「自然は真空を嫌う」と言っていたように実は**自然に逆らって**真空状態を作るのには様々な技術や科学の発展が必要でした。



4.2 講義内容

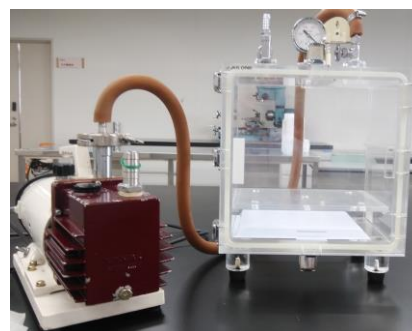
昔の人々がどうやって真空を実現してきたを紹介した後に、真空状態を作る技術・真空ポンプやその原理を説明します。また現在は何の分野で真空状態が利用されているかを紹介します。

4.3 実験

写真にある透明の容器の内部を真空ポンプで真空にします。 真空になった内部でどんなことが起こるかを観測しましょう。

【皆さんへのお願い】 真空に入れてみたいものを持ってきてください。

大きさは最大縦横高さ 10 c m 位、生物はダメです(かわいそうだから...)、飛び散ったり、汚れそうなものもダメです(後片付けが大変そうだから...)。



5. テーマ名 「化学反応を色素の変化で体感しよう」

5.1 概要

色素は、絵具や塗料、ケミカルライトなど、身の回りの様々なところで利用されています。本授業では、科学マジックで良く知られる「ブルーボトル反応」を取り上げ、色素の化学反応を色の変化を通して体験学習します。

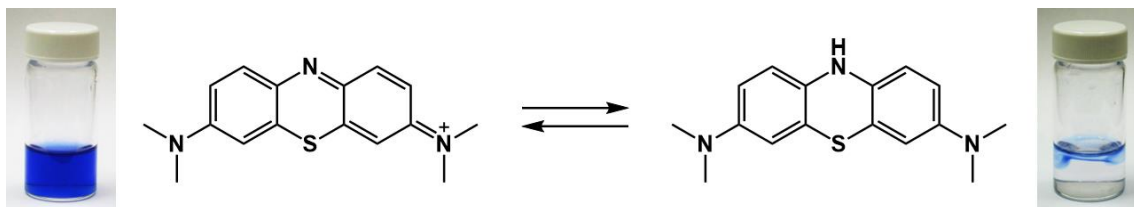
5.2 講義内容

メチレンブルーという色素に注目し、化学構造について学びます。次に、化学構造と色・性質の対応を学びます。さらに、メチレンブルーの青色が消失し、再び呈色する様子を観察し、化学反応を体感してもらいます。

5.3 実験・工作

①ペットボトルに、メチレンブルー、グルコース、水を加え、水溶液を加えます。温度、振とう、空気との接触時間などの条件を変え、化学反応の速度の関係を調べます。短時間で速やかに色を変化させ、マジックとして演示するための条件を探ります。

②別の色素を用いて、三色の変化に挑戦します。



6. テーマ名 「サングラスを作ろう（真空蒸着による薄膜の作製）」

6.1 概要

情報化の波は、一般の人の生活中にもどんどん浸透しています。例えば、パソコンや携帯電話、AIなどの普及は大変なスピードです。これらの情報機器に不可欠となっているICやLSI、などの電子デバイスには、ナノオーダーの薄い膜、薄膜が用いられています。薄膜はその他にもサングラスやメガネ、カメラのレンズなどにも用いられています。この体験授業では、薄膜とは何か？どのようなところに使われているのか？について勉強します。また実験として、真空蒸着という方法で実際にメガネのレンズに薄膜を作製し、そのようすを観察します。



6.2 講義内容

薄膜はいろいろな用途で用いられます。

- ・ サングラスやメガネ、カメラのレンズ：光学的な用途について勉強しましょう
- ・ ICやLSI：電気・電子関係の用途、デバイスのしくみについて勉強しましょう
- ・ 太陽電池：どのような仕組みになっているか勉強しましょう
- 液晶ディスプレイ：どのような仕組みになっているか勉強しましょう

6.3 実験・工作

百聞は一見にしかず。真空蒸着という方法で薄膜を作製してみましょう。薄膜ができるようすを観察すると、ミクロンオーダーのうすい薄膜のことが見えてきます。

講 座 名	農学部サイエンスアドベンチャー2025 ～知っているようで知らない「農学部の研究」～		
開 設 学 部	農学部	講 師	(研究紹介・希少糖生産 ST 探検) 森本 兼司 (研究紹介・圃場探検) 大野 健太郎
開 設 期 間	8月8日(金)	講 義 時 間	10:00～11:00 研究室紹介 11:00～12:00 施設探検
実 施 場 所	三木町農学部キャンパス	受入可能人数	25名
講座の趣旨等	香川大学農学部には、先端生命科学コース、アグリサイエンスコース、フィールド環境コース、バイオ分子化学コース、食品科学コースの5つのコースがあり、そこでは農業生産からバイオテクノロジーまで、とても幅広く興味深い研究が進められています。本講座では、「農学部の研究」について理解を深め、興味や関心を持ってもらうことを目的としています。		
講座の概要等	「香川大学農学部だからこそ」の研究を食品科学コースとアグリサイエンスコースから1つずつ紹介します。 ・香川大学で生まれた希少糖研究、その源流となった技術と希少糖生産戦略 ・香川はキウイフルーツの品種王国！野生種を使えば常識破りのキウイを開発できる！？ <応用微生物学研究室> 発酵食品の製造は微生物の力を利用して成り立っています。その微生物の体内にはさまざまな産業にとって有用な酵素が詰まっています。我々は個々の酵素をうまく活用して生活を豊かにしています。応用微生物学は幅広い学問分野ですが、日本は甘味料の製造を得意としています。さまざまな食品に使用される異性化糖を紹介し、そして香川大学で生産技術を開発した希少糖（地球上に少量しか存在しない単糖とその誘導体）の製造方法とその特徴について紹介します。 <果樹園芸学研究室> 香川大学では、国内の山林で見つかるキウイフルーツの近縁野生種を多数保有しています。その一つのシマサルナシは近年の異常な猛暑の中でも元気に育つため、持続可能なキウイフルーツ生産のための切り札となります。このように、近縁野生種は栽培種には無い多種多様な特性を有していて、常識破りのキウイフルーツを開発することができる可能性を秘めています。どんな特徴をもった野生種が存在するか、利用例と最近の研究を紹介します。 <施設探検> 「香川大学農学部の中に工場？」全国でも「香川大学農学部」にしかない研究施設「希少糖生産ステーション」を探検し、「希少糖生産だけじゃない香川大学の学び」の秘密についてリサーチします。また、暑さが平気な人は、圃場で様々な農作物の研究の様子を視察します。 午後からは、午前中に紹介した研究室以外の研究内容を知ることができる研究紹介ツアー、研究体験、施設見学、入試相談等にも参加することができます。		
参考書等	特に使用しません。		
受講上の注意			
高校生へのメッセージ等	皆さんは、「農学部の研究」と聞いてどのような内容をイメージしますか？ 本講座では、知っているようで知らない「農学部の研究」についてわかりやすく紹介します。また、希少糖生産ステーションと研究圃場を探検し、その秘密についてリサーチします。皆様、ふるってご参加ください。		

令和7年度行事予定表（昼間）

第1学期

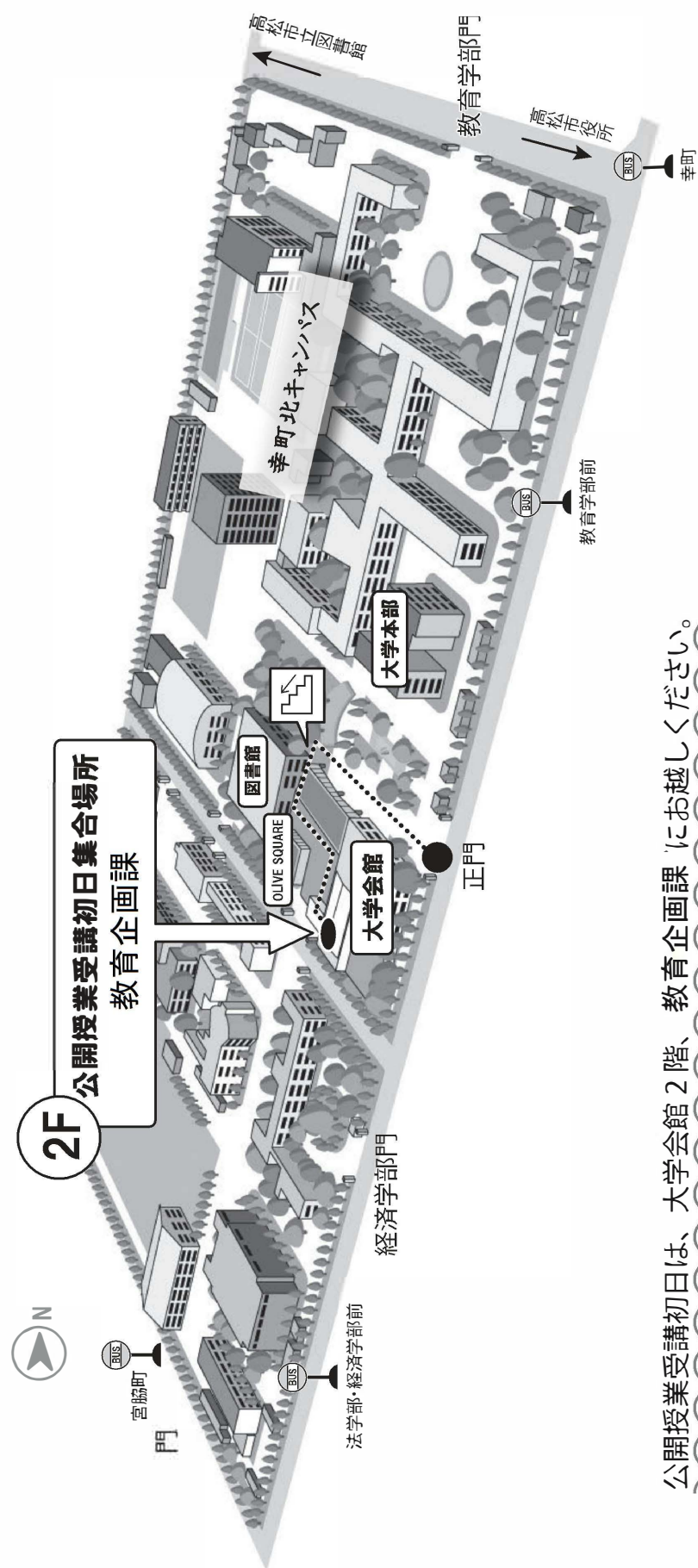
日	月	火	水	木	金	土
1月	31	第1学期開始 1 入学式(初年4/3)	2 入学式(初年4/3)	3 新生ガイダンス	4 新生ガイダンス	5
6	7	第1学期・第1クォーター履修登録期間 4/16～4/18時まで (ただし令和7年度新生入学生は3/30～4/18時まで) 9 新生ガイダンス 10 入学式(初年4/3)	8 入学ガイダンス 11 入学ガイダンス	12		
13	14	第1学期・第1クォーター履修登録期間 4/18～4/19日まで (抽選)	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1 履修登録(火)	2	3
4	5	6	7	8	9 履修登録(火)	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

(注1)7/21(月・祝)を授業日とする。
(注2)土曜日の授業(・定期試験)予備日は、気象情報の発令等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
(注3)7/28(金)～27(日)の間、幸町北キャンパスにおいて全国高等学校総合文化祭が開催(25日は設置)される。この間、授業や補講授業を実施できなかつた幸町北キャンパスで開講される科目のために、7/29(火)を特別授業予備日とする。
(注4)オーブンキャンパス:8/7は医学部看護学科、8/8は医学部医学科(午前)、臨床心理学科(午後)、他の学部

第2学期

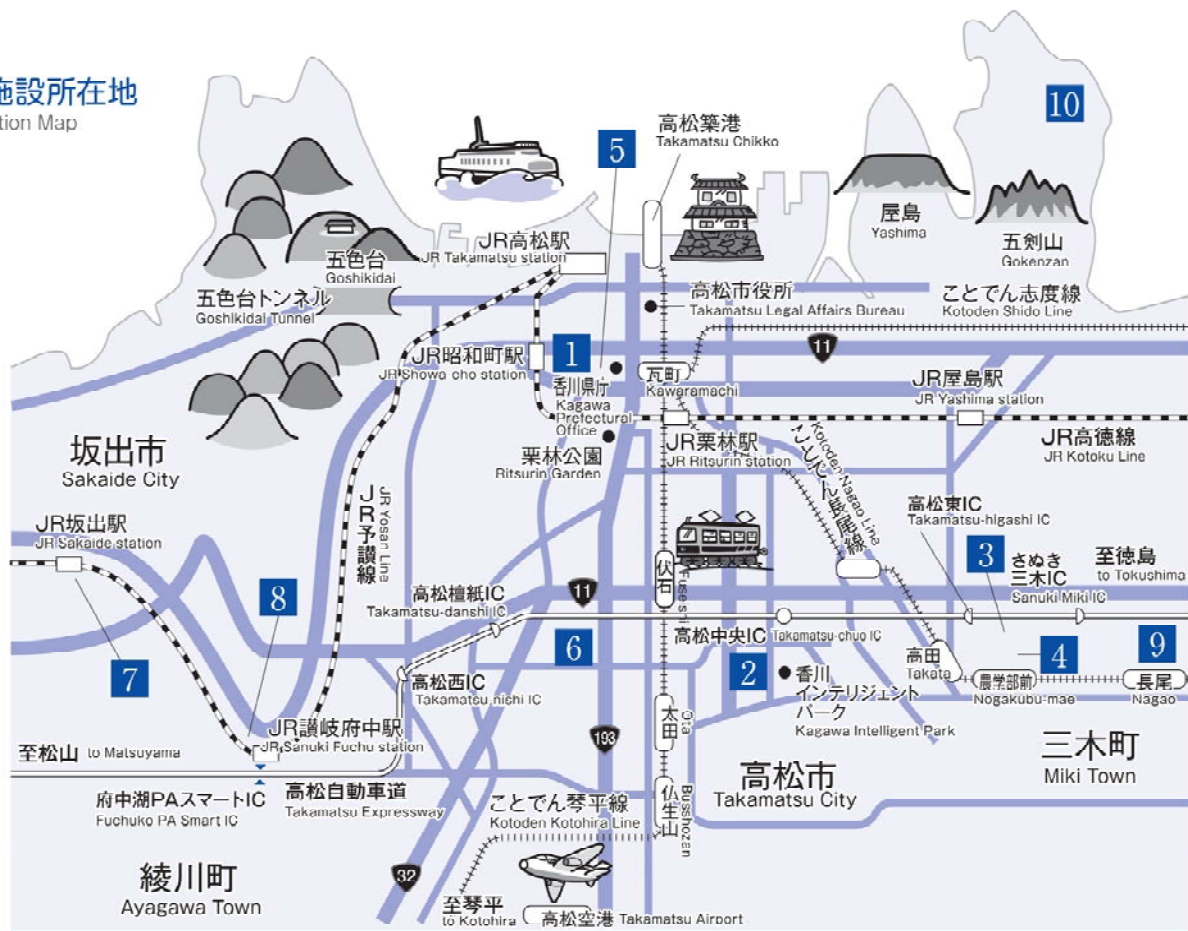
日	月	火	水	木	金	土
10月						新入外国人留学生 ガイダンス
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14 振替授業(月)	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24 大学最新夜祭 (臨時休業)	25
26	27 大学祭振収日 (臨時休業)	28	29	30 振替授業(月)	31	大学祭
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24 振替日(月)	25	26	27	28	29
30	振替授業(月)	1	2	3 授業開始(第4 クォーター)	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25 冬季休業～1/7	26	27
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14 振替授業(月)	15 振替授業(金)	16 入試会場設置 (臨時休業)	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13 振替授業(水)	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24 入試会場設置	25	26	27	28	29
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 春季休業～3/31 入試会場設置	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24 卒業式 (毎年3/24)	25	26	27	28
29	30	31 第2学期終了				

香川大学幸町キャンパスマップ



公開授業受講初日は、大学会館 2 階、教育企画課 にお越しください。

1 各施設所在地 Location Map



1 幸町キャンパス Saiwai-cho Campus

教育学部／法学部／経済学部／地域マネジメント研究科／創造工学部
Education/Law/Economics/Graduate School of Management/Engineering and Design

JR高松駅から

- JR高徳線「昭和町駅」下車。徒歩5分
- ことでんバス [11] 下笠居線(昭和町経由便)で「幸町」下車。徒歩2～3分
- ことでんバス [13] 下笠居線(宮脇町経由便)または [15] 香西線(宮脇町経由便)で「宮脇町」下車。徒歩2～3分
- ことでんバス(まちなかループバス)で「香川大学教育学部前」または「香川大学法学部・経済学部前」下車。徒歩1分
- 車で約10分

高速道路から

- 東方面よりお越しの場合…高松中央IC(高松道)から車で約20分
- 西方面よりお越しの場合…高松西IC(高松道)から車で約20分

From JR Takamatsu station

- Take JR Kotoku Line and get off at Showa-cho station, and then 5 minutes walk to the campus.
- Take Kotoden Bus No.11 Shimokasai Line (via Showa-cho) and get off at Saiwai-cho bus stop, and then 2-3 minutes walk to the campus
- Take Kotoden Bus No.13 Shimokasai Line (via Miyawaki-cho) or No.15 Kouzai Line (via Miyawaki-cho) and get off at Miyawaki-cho bus stop, and then 2-3 minutes walk.
- Take Kotoden Bus (Machinaka Loop Bus) and get off at Kagawa Daigaku Kyounikugakubu-mae bus stop or Kagawa Daigaku Keizaiakubu-mae bus stop, and then 1 minute walk to the campus.
- Approximately 10 minutes by car.

From the express way

- From the east: Approximately 20 minutes from Takamatsu-chuo Interchange at Takamatsu Highway
- From the west: Approximately 20 minutes from Takamatsu-nishi Interchange at Takamatsu Highway

2 林町キャンパス Hayashi-cho Campus

創造工学部 Engineering and Design

JR高松駅から

- ことでんバス [65] 川島線(レインボー通り経由便)で「香川大学創造工学部前」下車すぐ
- ことでんバス [61] 川島線「サンメッセ香川」下車。徒歩10～15分
- ことでんバス [63] サンメッセ西植田線で「サンメッセ香川」下車。徒歩10～15分
- ことでん琴平線で「ことでん高松築港駅」→「伏石駅」下車。
- 「伏石駅」からことでんバス伏石駅サンメッセ線で「香川大学創造工学部前」下車すぐ
- 車で約20分

高速道路から

- 高松中央IC(高松道)から車で約5分

From JR Takamatsu station

- Take Kotoden Bus No.65 Kawashima Line (via Rainbow-dori) and get off at Kagawa Daigaku Sozo Kogakubu mae bus stop that is just in front of the campus.
- Take Kotoden Bus No.61 Kawashima Line and get off at SunMesse Kagawa bus stop, and then 10-15 minutes walk to the campus.
- Take Kotoden Bus No.63 SunMesse Nishi Ueta Line and get off at SunMesse Kagawa bus stop, and then 10-15 minutes walk to the campus.
- Take Kotoden Kotohira Line at Kotoden Takamatsu Chikko station and get off at Fushishi station, and then take Kotoden Bus Fushishi-eki SunMesse Line and get off at Sozokogakubu mae bus stop that is just in front of the campus.
- Approximately 20 minutes by car

From the express way

- Approximately 5 minutes from Takamatsu-chuo Interchange at Takamatsu Highway

3 三木町医学部キャンパス Miki-cho Campus

医学部 Medicine

JR高松駅から

- ことでん長尾線で「ことでん高松築港駅」→「高田駅」下車。
- 「高田駅」からことでんバスで5分、「大学病院」下車すぐ。
- ことでんバス [75] 大学病院線で「大学病院」で下車すぐ。
- 車で約30分

高速道路から

- 東方面よりお越しの場合…さぬき三木IC(高松道)から車で約5分
- 西方面よりお越しの場合…高松東IC(高松道)から車で約5分

From JR Takamatsu station

- Take Kotoden Nagao Line at Kotoden Takamatsu-Chikko station and get off at Takata station, and then take Kotoden bus 5 minutes from the Takata station and get off at Daigaku Byouin bus stop that is just in front of the campus.
- Take Kotoden Bus No.75 Daigaku Byouin Line and get off at Daigaku Byouin bus stop that is just in front of the campus.
- Approximately 30 minutes by car.

From the express way

- From the east: Approximately 5 minutes from Sanuki-Miki Interchange at Takamatsu Highway
- From the west: Nearby Takamatsu-higashi Interchange at Takamatsu Highway

4 三木町農学部キャンパス Miki-cho Campus

農学部 Agriculture

JR高松駅から

- ことでん長尾線で「ことでん高松築港駅」→「農学部前」下車。徒歩2～3分
- 大川バス引線「農学部前」下車。徒歩5分
- 車で約40分

高速道路から

- 東方面よりお越しの場合…さぬき三木IC(高松道)から車で約10分
- 西方面よりお越しの場合…高松東IC(高松道)から車で約5分

From JR Takamatsu station

- Take Kotoden Nagao Line at the Kotoden Takamatsu-Chikko station and get off at Nougakubumae station, and then 2-3 minutes walk to the campus.
- Take Okawa Bus Hiketa Line and get off at Nogakubu mae bus stop, and then 5 minutes walk to the campus.
- Approximately 40 minutes by car

From the express way

- From the east: Approximately 10 minutes from Sanuki-Miki Interchange at Takamatsu Highway
- From the west: Approximately 5 minutes from Takamatsu-higashi Interchange at Takamatsu Highway

5 教育学部 附属高松小学校 附属幼稚園高松公園 Takamatsu Elementary School Takamatsu Kindergarten

6 教育学部 附属高松中学校 Takamatsu Junior High School

7 教育学部 附属坂出小学校 附属坂出中学校 附属幼稚園 Sakaide Elementary School Sakaide Junior High School Kindergarten

8 教育学部 附属特別支援学校 School for Special Needs' Students

9 農学部附属農場 10 庵治マリンステーション University Farm Aii Marine Station

高校生を対象とした公開授業及び体験授業に係る受講生・保護者連絡先

受 講 生 氏 名	
受 講 生 電 話 番 号	
受講生メールアドレス	
保 護 者 氏 名	
保 護 者 連 絡 先 (電話番号・メールアドレス)	

※携帯等のメールアドレスは大学（パソコン）からのメールが届かない可能性もありますので、パソコンやWebのアドレスをお持ちでしたら、携帯等のアドレスと併せてご記載ください。

香川大学から受講決定の通知がありましたら、受講初日にこの用紙と受講料をお持ちください。（公開授業は1科目につき、「15 及び 16 回の授業は 2,300 円」、「8 回の授業は 1,800 円」。体験授業は無料。）

なお、上記の個人情報は、香川大学が高校生対象公開授業及び体験授業の実施に当たり必要な範囲において利用させていただきます。それ以外の目的に利用することはありません。